

第2次南風原町地域福祉推進計画 第2回策定委員会での意見等

・翁長委員からの質問書より

＝計画完成後の地域への周知について、各地域の区長等、評議員等への説明会が必要と考える。

A：(会議では) 地域づくり推進委員会を各字・自治会で設置していく際には地域に出向いていくので、そのとき、新たな地域福祉推進計画について説明していきたい。

・「学びの場」について

＝学びの場の施策があるが、「南風原町での学びの場」になっている。地区公民館を活用したり地域住民の学びの場が欲しい。個人でも学びの機会を開いている人がいるので、そういう人たちを支援する学びの機会も必要と思う。住民視点で気軽に行けるような状況をつくる。

A：(会議では) 10月に住民会議のワークショップを行い、その中で、第2次計画が始まった後での「学び場」の設定について、意見をもらいたいと思っている。皆が参加しやすいようなやり方について考えていきたい。

・地域別(字・自治会単位)の「ちむぐるプラン」の作成について

＝自治会ごとの計画を住民でつくるということをしてはどうか。地域で意識がある人が集まって、地域に必要なことは何だろうかを考える。そこから実践するにはどうするか勉強を重ね、そして住民に見せていく。この計画に自治会ごとの計画について掲げられていれば住民にも投げかけられる。

A：(会議では) 地域づくり推進委員会の中で、参加者みんなの合意が得られれば、その自治会のちむぐるプラン(地域福祉計画)を作っていくということができると思う。

・居場所、交流の場の周知について

＝町外や県外から来た人がどこに行っているのかわからないようなので、子育てサロンなど子育て世帯の交流の場の周知の方法が必要だと思う。

・福祉教育のあり方について

＝福祉教育を行うときのテーマなど、児童・生徒が自分たちで調べて学び・実践することが求められている。社協の役割としてはもっとそこを研究して取り組むことが必要ではないか。

- ・教育現場に福祉の専門職が必要

＝学校は教育分野の方々だから、福祉の専門職を学校に置かないとならないと思う。そういう人なら理解して取り組みにつなげてくれると思う。

- ・ボランティア人材の確保

＝ボランティアやった人が、楽しいから一緒に行こうと、別な人に声をかけていったら、ボランティア活動に入りやすくなるのかなと思う。

- ・介護の人材について

＝介護保険の要支援の部分が市町村に移ったが、高齢者同士の助け合いということで、住民の有償ボランティアで対応というのがある。このところをどうしていくか、これも一つの大きな課題となっていると思う。